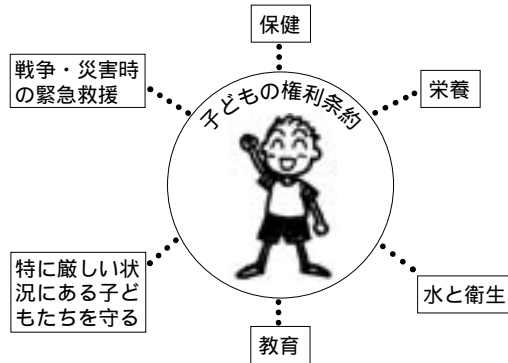


基礎講座

UNICEF

世界にはたくさんの国連機関や国際NGOがあります。その中で常に強い使命感と実行力を持って、子どもとの約束をはたしてきたユニセフ。今回は「ユニセフならではの」の特徴をご紹介しますと思います。



第7回 ユニセフだからできること

ユニセフの特徴

子どものための国連機関

ユニセフは1946年、第1回国連総会で創設された子どものための国連機関です。現在は「子どもの権利条約」に基づき、世界のすべての子どもの生存、発達、保護、参加の権利が守られるように161の国と地域で活動しています。



© UNICEF/ETHIOPIA-33/PIROZZI

現場中心の開発協力機関

現在ほとんどの開発途上国にユニセフ現地事務所が置かれ、本当に支援を必要としている人びとに、確実に支援が届くようにしています。



© UNICEF/HQ96-0690/RWANDA/LEMOYNE

中立性、実行力、強い使命感

政府軍と反政府軍など、敵対する両グループと話し合いを持てるのもユニセフの特徴です。話し合いの結果「子どものためなら」との理解を得られるのも、子どもを守る50余年の活動で国際的に高い評価と信頼を得てきたユニセフだからできることです。子どものために本当に必要な活動を純粋に行えるので、ユニセフ職員の倫理感と実際の業務に相違がありません。



© UNICEF/92-358/CAMBODIA/LEMOYNE

政府、民間との協力・支援

ユニセフは当該政府と共同で仕事をしています。このことは意外に知られていませんが、政府と共同の事業は国連機関だからこそできることです。政府の既存の保健、教育などのシステムを活かした支援ができるため、無駄がなく、支援を終えてもその国の自立につながるすることができます。また政府と共同でプロジェクトを組むため、その国の財源を引き出すことができ、子どものためにより大規模な事業を行うことができます。これにより、その国の政府が自国の子どもに関心を向けるようにもなります。



© UNICEF/CP92-2-48

政府との折衝の実際

ユニセフの「活動5カ年計画」に基づいて、ユニセフ/政府共同プロジェクトを策定します。



© UNICEF/DO192/NIGERIA-112/PIROZZI

1. 政府と話し合い、その国の子どもの状況分析を開始する
2. 最も適当な支援プログラムを策定する
3. プログラムに基づきユニセフと政府、それぞれの分担金を決める
4. 政府に対しては国防費の見直しや無駄な予算などを見直してもらい、資金提供を要請する
5. ユニセフ本部に事業計画書と資金要請を提出する
6. ユニセフ本部からの資金調達にともない、政府、他の国際機関やNGO、地域の人びとの参加と協力によって事業を進めていく
7. モニタリング 監視・評価

一方ユニセフの財源の3分の1は一般市民からの善意による募金なので、国家的な利害や政治に左右されることがなく、あくまで「子ども最優先」で仕事をすることができます。また、地域に強い影響力を持つNGO、女性団体、地方自治体なども協力関係を結んでいるため、スラムなど政府が入っていけない地域での活動も効率よく行うことができます。



© UNICEF/HQ97-0953/PHILIPPINES/HORNER